

# 『金融危機の連鎖と処方箋』<sup>1</sup>

木原 隆司<sup>2</sup>

本稿では、各国で多発する金融危機（銀行・通貨・債務不履行・債務再編危機）の連鎖、その経済的影響をグランジャー検定やパネル分析（VAR、Probit、固定効果モデル等）により検証し、（金融センター（米国）等の公的債務・対外債務の増大・金融危機を受けた各国の公的債務・対外債務・銀行信用の増大⇒）各国の「銀行危機」⇒「通貨危機」⇒「債務不履行危機」⇒「債務再編危機」の連鎖となる可能性が高いことを明らかにした。

また、連鎖的危機の発端となりかねない「銀行危機」の予防・早期回復のためには「良好な財政収支」（Fiscal space）の維持が重要であるが、中央銀行政策金利等の「高い政策金利」（Monetary space）の維持は、むしろ危機を招き回復を遅らせかねないとの実証結果となった。更に、「金融アクセレーター」と「資本体化技術変化」が「銀行危機」を大規模化・長期化させる動学的一般均衡モデルを紹介するとともに、2022年に初めて「債務不履行危機」に陥った「スリランカ」をケースとして取り上げ、財政状況の悪化や銀行信用の急拡大が金融危機に悪影響を与えるため、Fiscal spaceの確保や銀行部門を補完する「証券市場」の深化が、危機の回避と早急な回復のために極めて重要であることを示した。

キーワード：金融危機、危機の連鎖、公的債務不履行、Fiscal space、証券市場、スリランカ  
JEL Classification: E51, E62, F34, F44, G15

<sup>1</sup> 本稿に関し澤田康幸東大教授、林田雅英財総研副所長から有益なご指摘を頂いた。心より感謝したい。

<sup>2</sup> （公財）NIRA 総合研究開発機構・評議員/財務省財務総合経済研究所・上席客員研究員